

# 算数科学習指導略案

1年2組 24名 指導者 池元雅規

本授業では、以下の検証を行うものである。  
 子どもたちの日常にあるようなものを学習課題として提示し、比べるという思考スキルを利用することが増加の場面も加法の式に表せることを理解することに効果的であるか。

## 1 題 材 たしざん(1)

## 2 指導計画 (総時数13時間)

小題材	主 な 学 習 活 動 【 評 価 規 準 】	時間
④ あ わ せ て い く つ	1 ボールをかごに入れる絵やブロックをあわせる絵を見て、合併の場面について知り、加法の記号と等号を使って式で表す。 【知：加法の場面がわかり、加法の記号や等号の使い方を理解している。】	1
	2 いろいろな場面について式に表したり、加法の答えを見つけたりする。 【関：絵を見て、加法の場面のお話を作ろうとしている。】	1
	3 文章から加法の場面を読み取り、絵や式に表す。 【考：文から加法の具体的場面をイメージしている。】	1
	4 10以下の加法を計算する。 【技：10以下の加法の計算ができる。】	1
い ふ く つ と ③	5 増加の場面を知りその場면을加法の式で表すことができることを考える。 【知：増加も加法の場面であることを理解し、式に表すことを理解している。】	1 (本時)
	6 文章から加法(増加)の場面を読み取り、絵や式に表す。 【考：文から加法(増加)の具体的場面をイメージしている。】	1
	7 和が10以下の加法の計算練習をする。 【関：生活の中にある事象を取り上げ、問題作りに取り組もうとしている。】	1
か た あ ど ざ ん ②	8 たし算カードを作る。 【関：たし算カードを整理しながら作ろうとしている。】	1
	9 たし算カードを使ったゲームをして遊ぶ。 【考：同じ答えになる加法の式に、数の変わり方のきまり方があることに気付く。】	1
① い さ の ん け	10 0の意味から0を使った計算について考えたり、おさらいをしたりする。 【考：0の入った場面を捉えて、話をしている。】	1
③ め 力 し だ	11 たし算の本について知り、たし算の本を作る。 【考：加法の場面を正確に表現している。】	1
	12・13 既習事項のまとめ・確かめをする。【考：加法の場面への理解を深めている。】	1

## 3 本 時 (5 / 13)

### (1) 目標

増加の場面も加法の式に表せることを理解し、答えを正しく求めることができるようにする。

### (2) 評価規準

増加も加法の場面であることを理解し、式に表すことを理解している。

【数量や図形についての知識・理解】

### (3) 指導に当たって

「つかむ」段階では、場面の様子を想像して、かもの数がもといいた数より増えていることに注目させたい。

「見通す」段階では、「これまでに学習したことで何か使えないかな。」など発問し、おはじきやブロックを使って表現したことに気付くことができるようにする。子どもたちが入学して間もないので、ある程度共通の見通しがもてるように配慮する。

「見つける」段階では、これまで学んだことを活用していることに対して価値付ける賞賛をしながら指導を行う。戸惑っている子どもには、解決するヒントを与えたり、助言を行う。

「磨き合う」段階では、学習問題をどのように解決したかを確認し、同じ加法でも意味が違うことに気付かせ、増加の問題の意味理解を深めさせたい。

「振り返る」段階では、学習したことが成り立つかどうかを確かめたり、定着を図るために摘要問題に取り組ませるなどして理解できるようにする。

算数

過程	時間	主な学活動と指導の手立て・評価
つかむ 見通す	15	<p>1 学習課題を受け止める。</p> <p>はじめに、池にアヒルが4わいました。あとから2わふえました。アヒルはなんわになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの問題とどこが違うかな。</li> <li>・4わは、はじめから池にいたんだ。</li> <li>・2わは、あとから来たんだね。</li> </ul>
		<p>2 学習問題をつかむ。</p> <p>「ふえる」おはなしのときは、どのようなしきになるのだろうか。</p>
		<p>3 ブロックを使って、数をかえていろいろなお話について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの問題とどこが違うかな。</li> <li>・4わは、はじめから池にいたんだ。</li> <li>・2わは、あとから来たんだね。</li> </ul>
見つける 磨き合う	25	<p>4 金魚の絵を見て、「ふえる」問題の解決方法を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金魚の問題もたし算で解決できるかな。</li> <li>・「ぜんぶで」のときと、式は同じになるね。</li> <li>・「ふえる」お話のときも、たし算を使うと解決できるね。</li> </ul>
		<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>かずが「ふえる」おはなしのときも、たしざんのしきをつかうとこたえがでる。</p>
振り返る	5	<p>6 たし算の練習問題をする。</p>
		<p>7 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あわせて」「ぜんぶで」「みんなで」「ふえると」は、全てたし算で解決できるんだね。</li> <li>・ブロックやおはじきを使って考えるとわかりやすいね。</li> </ul>

これまでに学習した「あわせて」「ぜんぶで」「みんなで」はたし算の式に表せることを確認して、既習事項と学習問題を比較することで、学習問題の焦点化を図る。

比較しやすいようにブロック操作を取り入れる。また、「はじめに」「あとから」「ふえると」などの解決のポイントになる言葉も確認する。

比較する思考スキルや、構造的に考える板書を使って、解決の見通しが立てられるようにする。

※ 増加の場面について表す式を、ブロックやおはじきを使いながら考え、既習事項の合併と考え方が同じであることに気付くことができる。

- 解決できている子どもには、たし算の意味の違いを自分の言葉で表すことができるようにする。
- 解決できていない子どもには、教師とともにブロックを動かしながら加法と同じように加える作業をすることによって、たし算の意味の違いに気付くことができるようにする。

本時の学習でわかったことを確かめたり、定着を図ったりするために、摘要問題に取り組む。

発表の中で、伝え方が不十分であったり、根拠が明確でない場合は、他の友達が言い直す活動を行い、理解を深めることができるようにする。